

海外教育協力者に対する環境教育実践指導と教育マテリアルの支援

課題実施機関 宮城教育大学

課題代表者名 村松 隆

1. 事業の目的・方法

宮城教育大学は、青年海外協力隊員支援として、環境教育実践事例情報の提供、隊員の活動事例情報の提供、および帰国隊員の学校教育支援を進めている。環境教育の教材は、小学校教員を始め多くの隊員活動に役立つことから、最終年度では、これまで収集した情報をもとに汎用な支援教材を作成し、データベース、CD/DVD 等で隊員へ提供することとした。

2. 今年度の活動・成果

(1) 環境教育情報の提供

日本の環境教育実践事例および青年海外協力隊（環境教育隊員）の活動報告を分析・整理し、隊員の教育活動を支援する教材データベースとしてインターネット上に公開している。

(2) 派遣前研修支援

派遣前隊員の事前学習を支援する目的で、青年海外協力隊活動データベース（環境教育隊員の活動報告）の登録情報を用いて、「JOCV 環境教育プロジェクト阻害・貢献要因シミュレーション教材」を作成した。これは、隊員活動上の阻害要因（障害事例による）と貢献要因（成果事例による）を、隊員の個人能力、集団能力、社会システム等の区分に分類しカード化した教材である。これまでの隊員の阻害要因と貢献要因を多角的に検討し、対策を立てるのに役立つ。今年度、駒ヶ根、二本松での派遣前研修において有用性が認められ、今後、継続的に活用される見通しとなっている。

(3) 派遣中隊員への教材提供

任地におけるワークショップ（2006:コスタリカ・エルサルバドル、2007:カンボジア、2008:コスタリカ）での隊員（主に小学校教員）からの要望に基づき、ゴミ問題に関する紙芝居教材（現地実践向けの基礎教材）を作成した。今年度は、複数の環境教育の帰国隊員から、任地で作成した教材や紙芝居のストーリーに活用できる写真の提供を受けており、これらの情報を取り入れたクリップ集を作成している。紙芝居にクリップを導入することで、任地での学校教育および現地指導者への研修に使用する教材の作成が容易となった。2008 年 12 月、コスタリカ隊員に対して教材提供および教材の質の検証を行った。

(4) 帰国隊員の教育経験の学校教育への還元

派遣現職教員帰国者の教育経験を復職後の学校教育へ還元するための検討の場として、第2回国際協力イニシアティブセミナーを開催する（2009 年 1 月 28 日、仙台国際センター）。学校関係者との意見交換を通して、帰国隊員の教育経験を活かすための検討を行う。

3. 最終成果物に向けた進捗状況

今年度は、過去3年間に蓄積した教育・活動情報をもとに、隊員活動現場の状況を踏まえ、隊員の教育活動に直接導入できる教材の検討を進めた。これらの教材を、データベースとして登録し配信すると共に、CD/DVD、もしくは紙面情報として、多くの派遣中隊員へ提供できるよう教材整備を進めている。